

UIFA JAPON

NEWSLETTER

■特集 UIFA国際女性建築家会議第12回日本大会を終えて

UIFA'98 日本大会を終わって

皆様、お疲れさま！

UIFA国際女性建築家会議第12回日本大会宣言

UIFA国際女性建築家会議第12回日本大会概要報告

皆さんのおかげです

Labyrinth (迷路) から喜多方へ

プログラム部会が担当した事について

おもてなし雑感

横浜の一日を担当して

広報、そして現実

■ UIFA'98 日本大会を終わって UIFA JAPON 会長 中原暢子

UIFA JAPONの会員の皆様今回の大会では、本当にお疲れさまでした。特に実行委員のみなさまのお骨折りに、ただただ感謝申し上げますばかりです。

大会終了後、いろいろご支援いただいた方々にお礼に伺ったのですが、こちらからは何も申し上げないのに「日本大会は大成功で本当におめでとうございました」と先ず先方から、ご挨拶を頂いて驚いてしまうことばかりでした。兎に角台風の切れ目で、会議中のお天気もまずまずでしたが、関西の旅行中は強い日差しにも恵まれ、北欧の人たちからは、「日光に当たりたかったのよ、嬉しいわ」と言われたり、日本人だけの旅とは大分感じが違いました。

大会中の論文発表その他大会宣言などについては、報告書が完成した機会に譲るとしまして、今回は日本人少数参加の関西の旅の印象について述べます。ここで一番驚いたのは、安藤忠雄の人気の高いことでした。特にドイツの若い人達が主でしたが、殆どの方が、英語の「安藤忠雄」と言う本を持参で、細かく設計年代から何処に建っているかを、調べて来ていることでした。京都でもこちらは、準備したコースに従って保険も掛けてあるので、そのコースを変更することは出来なかったのですが、ホテルについてから、安藤忠雄見学ツアーを組んで、見学に出掛けました。それで真っ暗になっても、見学していたようですが、1つの建物毎に、「説明出きる人」と言うと、必ず1人が立ち上がって丁寧に説明していたということです。その下調べの綿密さにも日本への関心の強さを感じました。

また、何人かの脚の不自由な方、心臓が少し悪い方などが居られましたが、折角京都まで来たのだからと清水寺の上下も、金閣寺・銀閣寺の裏山もすべて踏破されるその意欲には頭が下がりました。

■ 皆様、お疲れさま！ 日本大会実行委員長 松川淳子

長いようにも、短いようにも思える2年半あまりの大会までの年月だった。「本当に楽しかった」、「日本の友人達の温かい心に感激した」、「日本の古い面、新しい面を見ることができてとても良かった」など、いまだによせられる外国からの参加者たちのたくさんの方が日本側の苦勞をねぎらってくれている。失敗や問題はたくさんあるが、私なりに「成功」と考えている面を三つほどあげたい。

第一には、予想を超えて集まった発表や展示作品から、世界の女性達の仕事ぶりが改めてよく伝わり、日本の女性達の仕事ぶりや問題意識も伝える事が出来たことである。設計への関心、計画・プランニング領域における社会的な関心、材料の分野での環境共生への考え方、建築の文化的価値に対する考え、保存や再利用のやり方など、広い範囲に共通話題があり、お互いに情報交換をしながら深めていきたい課題が多く、刺激に満ちた大会になったと思う。

第二には、これまでのUIFAの大会と比べて、若い世代がたくさん顔を見せたことである。もちろん、日本に対する興味だけから参加した人もいたかもしれないが、21世紀の環境を担い、そこで暮らす中心的世代が加わっての会議は、UIFAの常連達がだんだんと年を重ね、実務から遠ざかりつつあることを考えると、課題を次世代に引き継ぐ、またとない機会となった。UIFAもまた、多くの方々に支援・認知していただき新しい可能性を示したということである。

第三は、大会宣言を代表者会議で議論し、採択できたことである。UIFAの行動計画とまではいえないが、これからの仕事に反映し、次の世代に引き継ぐ仕事の方向を示していると思う。

一緒に考え、行動できる仲間が世界中にいる……こう考えると大会までの苦勞も、後始末の苦勞も一挙に吹き飛ばし思いがする。

■ UIFA国際女性建築家会議第12回日本大会宣言（1998年9月6日）

UIFA（国際女性建築家会議）第12回日本大会は、1998年9月1日より1週間にわたり世界31ヶ国から集まった300人にのぼる建築、地域、都市の創造と研究にかかわる女性達によって開催された。

本大会のテーマは、「環境共生時代の人・建築・都市-21世紀における新しい調和的關係を模索しながら-」である。

テーマに沿って、56の発表があり、43の作品が展示された。

主張された主な意見は次のようにまとめられる。

- ①女性に都市の主要な創造者である。また、つねに原点から発想する事が出来、長期的な視点に立つ事が出来る利点を活かして、この分野における専門家としての役割を自覚し、自らの力を高めていかなければならない。
- ②子どもや高齢者、障害を持つ人々などへの環境的対応に配慮し、それぞれが自己決定できる社会、それを支援する社会を作る努力をすべきである。
- ③地域に固有の自然環境、地域に固有の歴史や文化、産業を大切にし、地域で積み重ねられてきた生活を大事にする保存や修復、再生・再利用を考えたい。こうした努力が省資源につながるはずである。
- ④職人の技術を保存、継承、発展させるべきである。
- ⑤廃棄物を生まない、または出来るだけ廃棄物の少ないデザインを考えよう。
- ⑥身体と結びついた感覚を大切に、五感を大切にデザインしよう。
- ⑦地域における情報の大切さに着目し、災害時の助け合いに役立てよう。災害時には、物的サポートのみならず、心理的サポートも大切である。
- ⑧復興の計画は「元どおり」にするのではなく、「もっとよくなる」という姿勢で行うべきである。

私たちはこれらの意見をふまえ、次のような提案をしたい。

- ①地球環境が危機にある事を意識し、その良好な保全と創造のための普及・啓発をすること。
- ②環境教育を重視し、次の世代に伝えること。
- ③身体感覚を大事にし、五感を大切に仕事をする事。
- ④それぞれの地域の自然、社会、歴史、文化環境の固有性を大切に、固有の技術を継承、発展させること、これが省資源につながる事。
- ⑤人と人との関わりを大事にし、自己決定と相互支援の出来る社会を作ること。
- ⑥地球の安全と平和に対して、女性として強く発言していこう。女性はその利点と特徴を生かして、様々な分野で活躍している。この大会で発表された、たくさんのレポートや作品がそれを証明している。女性の就業とその継続を支援し、この力を活かすことが21世紀の地球環境に貢献すると私たちは確信する。

情報交換の仕組みを確立し、世界の女性の「レースワーク」をつくることによって、UIFAの活動をさらに強化し、よりよい環境の創造に貢献しよう。

■ UIFA国際女性建築家会議第12回日本大会概要報告

会議の名称 UIFA国際女性建築家会議第12回日本大会

The 12th Congress of the International Union of Women Architects

開催日 本会議 平成10年9月1日(火)～7日(月)

ポストコングレスツアー 平成10年9月8日(火)～12日(土)

作品展示 平成10年9月2日(水)～6日(日)

開催場所 本会議 国立オリンピック記念青少年総合センター

作品展示 パークタワーギャラリー2

横浜シンポジウム ランドマークホール

主催 UIFA JAPON 国際女性建築家会議第12回日本大会 実行委員会

参加者数 31ヶ国

参加者 268名(国内 154名、海外 114名) 同伴者24名

発表論文数 17ヶ国 56件

A: 人と環境 13件

B: 建築と環境 26件

C: 都市と環境 17件

展示作品数 43件(国内28件、海外15件)

ツアー参加者数 世田谷スタディーツア 164名

墨田スタディーツア 141名

横浜スタディーツア 148名

東京スタディーツア 191名

横浜シンポジウム 会議参加者 180名、来賓 25名、市民参加者 200名

フェアウェル・パーティ 207名

エクスカージョン 東京 58名、鎌倉 123名

ポストコングレスツアー 参加者 115人(海外 95名、国内 20名)

国別参加登録者数内訳(参加人数)

Argentina アルゼンチン(5)	India インド(1)
Australia オーストラリア(2)	Israel イスラエル(2)
Austria オーストリア(1)	Japan 日本(154)
Belgium ベルギー(8)	Kazakhstan カザフスタン(1)
Brazil ブラジル(2)	Korea 韓国(8)
Bulgaria ブルガリア(4)	Latvia ラトビア(2)
Canada カナダ(0)	Malaysia マレーシア(1)
Czech Republic チェコ(1)	Mongolia モンゴル(2)
China 中国(4)	Poland ポーランド(3)
Cote d'Ivoire コートジボワール(2)	R Croatia クロアチア(2)
Denmark デンマーク(4)	Romania ルーマニア(8)
Ecuador エcuador(1)	Russia ロシア(0)
Finland フィンランド(1)	Slovenia スロベニア(4)
France フランス(10)	Sweden スウェーデン(3)
Germany ドイツ(13)	Switzerland スイス(4)
Georgia ジョージア(0)	Tunisia チュニジア(1)
Hungary ハンガリー(2)	USA 米国(12)

■皆さんののおかげです

総務・財務部会 渡辺喜代美

当部会は、縁の下の力持ち。目立った存在ではなかった。が目立った存在であったかもしれない。総勢六人プラス実行委員長を加えて七人の侍(?)が悩める頭を寄せ合って運営した。資金、後援、協賛などの支援、はたまた各セレモニーのゲストリストアップ、各ご挨拶をお願いする方々の選択、交渉、時間調整、挨拶内容の打合せなど、書き並べればそれまでのことであるが実際は大変なことであった。資金計画については、結論からお伝えすれば、当初予算から最終まで様々な調整作業の結果、赤字を出さずに終わった。最終報告は最終実行委員会にて行うことになる。赤字にならなかった最大の理由は、皆さんの無償の活動によると思う。1年半のUIFA実行委員会のメンバーの労働時間を換算したら膨大なものになっているだろう。手作りのワークは会議の質をも高めたが、同時に資金計画上は大きな助けであった。

各実行委員の協力のおかげで協賛、助成などもおおむね当初予算どおり。開催直前までハラハラドキドキ続けた資金計画は無事に役割を果たした。しかし、資金提供は報告などの後始末が必ず伴う。会議は終了したが会議終了後処理はまだ終わっていない。年内、年度内にはまだまだ皆さんのご協力をお願いすることが沢山あります。よろしくをお願いします。

さて、総務・財務の現在は支援下さった方々へのご挨拶を3役をお願いして、もっぱら予算決算を、沖山さんを中心に行っている。山本部長代理は健康管理のため検査入院中。松川実行委員長は残務の山に囲まれて大変。その他のメンバーは、日常業務に専念しつつも、会議の事を記事にしたりシンポジウムにてたりしてUIFA JAPONのことを宣伝している。

総務・財務は会議開催3ヶ月前ぐらいから月2回の会議を週1回ぐらいの割合で開いてきたが、毎回の最終電車や、これもあれも懐かしい今ですが、こんど国際会議を開くことがあったらもっと要領よくこなせるだろうな、というのがささやかな感想である。



UIFA'98 日本大会 会議場
—国立オリンピック記念青少年総合センター—

■Labyrinth (迷路) から喜多方へ

デザイン部会 平井美蔓

昨年10月、秋、気がつけば、UIFA'98 日本大会実行委員の一人として、2nd サキョー表紙のデザインに関わっていた。長時間を大会イメージの醸成に力を尽くしてこられた諸氏の中では新参者の私。22年前のイラン・ラムザール大会に、はからずも参加しただけのUIFAへのイメージであったといえる。

私の座右の書の一つにS・スタインバーグのイラスト集「Labyrinth」(迷路)があり、折りにふれては好きな頁を眺めながら、考え事の整理を行うことがある。2nd サキョーからはじまる視覚的なデザインへの取組方に悩む時間も、久しぶりにそのイラスト集とともに持ったのであった。打合用として、コピーしたその一つのイラストが機縁で、実行委員長松川氏の座右の、S・スタインバーグでもあることを知り、作家の都市論・文明論として結実しているイラストの素晴らしさを共有できると実感したことが、大会参加への私のリアリティであったといい得る。

女性だけの集まりということに対しては、ちょっと斜めから眺めたいとする私ではあるが、大会において、素直に心を打たれたいくつかの発表があった。

リガの木造住宅(ラトヴィア)ーその首都リガに現存する木造構築物の魅力
韓国の伝統的住宅の受動的設計原則(韓国)ー温故知新
自然との融合:日米の住宅と引き戸(日本)ー切り口の爽やかさ
島が見せる表情(クロアチア)ー地球をとらえる視座
地方都市における煉瓦建築物の保存と再生(日本)ー知行合一
ラグナ・ガーデンの緑化(ブラジル)ー地球未来へのレスポークとその展示作品
街づくりにおける歴史遺産の活用(日本)ー時間系で街を切る
都市の創造者たる女性(アルゼンチン)ー女性たちの表情が語る大会基調
独断と偏見と誹られることを覚悟の上でのピックアップ。いきいきと伝わってくるものがあつたことを私も検証してみよう、とすることが、大会が私に与えてくれたものとすれば、さしずめ最も手近な色味の村喜多方へ煉瓦の蔵達を覗る散策に出かけよう。



国際展覧会 オープニングパーティ
—パークタワーギャラリー2—

■プログラム部会が担当した事について

プログラム部会 山田規矩子

9月2日の朝、代々木オリンピックセンター国際会議場の席が、外国の女性達で次々と埋まっていく。どこの国の大会でもある、初日の始まる前のさわやかな緊張感が、会場内に漲っていた。ほぼ定刻の9時30分、国際会議には経験豊富な吉田あこ氏の司会で、開会式は始まった。以後6日間にわたる全日程のうち、プログラム部会が担当した部分について、概要を記す。

論文発表の応募は70件あった。1人10分という時間枠を設定し、全員に発表してもらえるようにプログラムを組んでいた。実際は、欠席者があり発表は56件だった。オーバータイムによる、その後のプログラムのスケジュールへの影響の心配は、欠席者のおかげで杞憂に終わった。発表には、第7回ベルリン大会から始まった、議長国方式を採用した。いろいろな国の方々に壇上に上がっていただき進行役をお願いした。いわばこの大会のメインの“出し物”である論文発表を、皆さん上手に仕切って下さった。

展示は論文と違って、作品持込みは当日でも可、としていた。その為、展示作業は開会直前の大変な作業となった。多くの方々の協力を得て、2日目の展示会オープニングパーティにこぎつけた。

世田谷スタディツアは、世田谷区住宅政策部の方々の全面的なバックアップによって成立した。区民ボランティア通訳の方々だけでなく、区の技術系女性職員の方々が活躍をして下さった。

墨田スタディツアは、レクチャーをお願いした長谷川逸子氏、大熊喜昌氏の協力の他に、墨田区まちづくり事業推進部の方々に、こちらも全面的に協力していただいた。

両スタディツア共に、4台のバスが異なる経路をパズルのように進行する計画であった。大きなトラブルもなくほぼ時間通りにツアが終了した時は、パズルが解けた—という感慨があった。

初日のオープニングパーティは、400名近い出席者があり、盛況だった。いろいろな面でお世話になった団体、企業、個人に招待状を送っていた。日・仏・英の3ヶ国語で行われたスピーチは、その長さに少々うんざりの雰囲気があった。アトラクションの日本舞踊“藤娘”(高橋和子氏)は好評だった。

墨田スタディツアの後のビールパーティは、会場設営からおつまみや紙コップの購入まで、すべて手作りのパーティだった。



論文発表 議長国

—セッション4・ドイツ・スウェーデン・日本—

■おもてなし雑感

おもてなし部会 正宗量子

私たち“おもてなし部会”の今大会担当範囲は、考えると無謀に近い広範囲の責任担当だった事を、まず反省しなければならない。が、ともかく引き受けた以上、心から協力体制を敷き日本の良さを伝え、大会を成功させねばならない。その神髄は、もてなしの心であり、すべてに感謝の気持ちで接する態度に通じる事だと考えるに至ったが、本当によくぞそれぞれの責任を果たしたと思う。歌舞伎や文楽の黒子役に徹し、陰に日向に、おもてなし部会の実行委員、神戸担当を加え総勢13名は、開会からポストコングレスツア最終日まで協力を惜しまなかった。幸運にも、全日程好天候。怪我人や病人の保険も使わず終い、大過なく終了できた事はとても嬉しい。ところで、都庁での歓迎パーティは名誉会長赤松良子氏の乾杯の音頭で大会が開幕。さわめきの中で子守歌のように聞くヴァイオリン生演奏BGMは、各国の歌やメロディ。感激した人々が、上田みどり氏の回りに輪を描く。予想通り音を欠き消すような二年振りの再会の歓喜のるつぼだ。エクスカッションは、国立能楽堂、国立第二劇場、中央工学校見学では設計者林雅子氏自らの解説。東京建築巡りは浅草界限で解散した。三溪園・外苑、白雲亭等見学し鎌倉鶴岡八幡宮へ。VIPの待遇で奥院の見学、土産迄頂く。座禅で高名な建長寺で座り方を伝授。ポスト・コングレスツアは、古都京都社見学。京町屋では、優れた自然環境の奥深い知恵の住まいを披露。奈良東大寺では、鹿の群れに大はしゃぎしたUIFA会長の顔。柿落とし前の法隆寺百済観音堂は高田管長自らの解説だった。そして神戸、海洋博物館内で小林郁雄氏の大地震復興状況講演会を開催後、公・市・私営の災害復興住宅など見学。明石海峡大橋を渡り、淡路で安藤忠雄の水御堂、大プロジェクト“淡路夢舞台”で全ての日程を完了した。しかし、何と言ってもクライマックスは、東京湾クルーズと清澄庭園の茶会お別れパーティの一日だろう。中原会長、小川副会長以下着物姿で抹茶を立て運ぶ日本女性の美は、いつまでも心に残るもてなしの一頁に違いない。コングレスバッグ、記念品の風呂敷作成や資料作成も労力を要した。しかし、もしこの日本大会が成功と言えたなら、二年に及ぶ綿密な計画と下見、予算との調整、そして会長他実行委員、全員総ての底力と協力の賜で、プロに支えられながら、本当の手作りに近いもてなしの心が生きたのだと思っている。



清澄庭園の茶会

—亭主・中原会長—

■横浜の一日を担当して

横浜担当部会 小渡佳代子

私のU I F Aのファイルを開くと'91年デンマーク大会で日本をアピールして7年、やっと日本大会を開くことができました。その間UIFA JAPONが設立され、'93年南ア大会では日本大会のテーマが問題となり「調和・人と建築」を提案、概ね合意されました。

理事の間で会場を担当していた私は国際会議場を関東圏で探し歩き、未決定のままハンガリー大会参加、開催地は東京か横浜ということで日本に決定しました。大会に出席する度に常連のU I F Aメンバーから「日本大会に参加するのを楽しみにしている」と聞き何かお手伝いできることがあればと思ってきました。

しかし、不景気に突入、資金が大きな問題でした。助成金等の支援団体を探すに当たり「横浜のことは横浜の人が調べなければ他にないでしょう」の言葉で横浜メンバーと実行委員会が足踏するまで関わり、実行委員会設立後はおもてなし部会として横浜市に企画書を提出、助成が正式に決定した後、横浜担当部会となりました。

部会は7人の実行委員、13人のワーキングスタッフそして横浜市の建築局にお世話になり、会議会社PCS、越膳さん、近ツリとも関わり横浜の1日を担当しました。勿論、市民公開シンポジウム・横浜の概要は実行委員長、書類関係は総務、予算は財務、ポスター、チラシ、看板はデザイン部会、記者発表は広報、スタディツアや資料集関係はプログラム、パーティや三溪園はおもてなし部会といった具合に各部会の皆様に大変お世話になりました。

特にシンポジウムのパネリスト等はチェボニックさん以外は皆さん面識のある方でしたがお会いするまで本当に来日して下さる心配、予定のサブコーディネーターは来日せず、ハンガリーとブラジルの2人のマリアさんに依頼、快く引き受けいただきました。来日後、顔合わせを兼ね初めて打合せを持ったときは分刻みのスケジュールに皆神経質でしたが、終わってみれば内容のあるスピーチを時間内にまとめ小川先生を始めさすが各国を代表する人と感心しました。その中でも韓国のシーファーさんは、日本のU I F Aの女性建築家の話をしたいが失礼にならないかと内容を何回も打合せしたことが印象に残っています。大変なこともありましたが、パネリストを含め多くの方々との関係が一生の思い出になる充実感を今は感じています。



市民公開シンポジウム・横浜
—ランドマークホール—

■広報、そして現実

広報部会 飯島静江

9月6日(日)閉会式の午前10時。本大会の成果、“大会宣言”を公表するプレス発表会。記者たちが待つ中未だ事務局会議まった中、10時20分出来立ての宣言原稿での説明会5分、質問の間もなく10時30分閉会式の開幕。待つもどかしさ、待たせるすまなさ、間に合わないことへの不安、これが本大会最後のプレス発表での現実。

2年前、まったくの広報部会手作りの1st. #キータ、宛名リストの作成と発送でスタート。強力なプロ、デザイン部会参加によるまったく生まれ変わって美しく立派になった2nd. #キータの制作、折りを見てのプレス発表、記事掲載依頼と原稿執筆、大会記録のシナリオ作りとその担当、いつも一歩先を行こうと思いつつ、いつも追いかけて過ぎてしまったのもこの2年間の広報部会の現実。

“公表する”“宣伝する”広報の2つの側面、“宣伝する”には、売り物があり買わせるためのセールスポイントがある。「女性建築家会議も大会テーマも日本初公開も売物にあらず」とひたすら日本大会を事実としての確に広範な分野に伝え、一人でも多くの人の興味をかきたてるべく“公表する”にこだわっての日本大会の広報活動。短い時間、限られは文字の中でいかに適切に事柄を伝え、その公表の意図するところを表現するかを常に心掛けながらなかなか思い通りにいかず、毎回苦しみの連続だったのも広報活動の現実。

大会の幕が上がり、そこには予想を上回る参加者、発表時間短縮、開会時間繰り上げ等プログラム部会がうれしい悲鳴を上げた論文発表数、満員バスの各スタディツア、立席の出るほどの横浜のシンポジウム、にぎやかなパーティの数々、参加者の約半数数が参加するというポストコングレスツア、“すばらしい大会をありがとう”の声、広報活動での2年間の現実からは思いもよらなかった事が続々と目の前に展開、“広報部会もお役に立てた”とひそかな部会員の喜び。

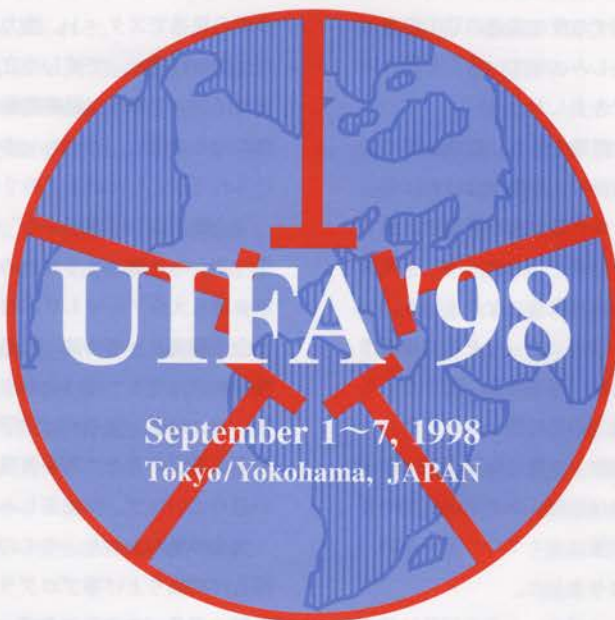
あれから2ヶ月、嵐が過ぎ去ったかのように思えたのもつかの間、広報部会には大会記録作成という小型ながら次の台風が到来。日本大会という嵐の影響は、12月末まで続くと思われ、まだまだ油断できないのが今の現実。

今の夢、どこの地で開催されるにせよ、“すばらしい大会をありがとう”と伝えるだけでいい、身軽なU I F A大会参加。



プレス発表会(9月6日)
—大会宣言の公表—

12th CONGRESS OF THE INTERNATIONAL UNION OF WOMEN ARCHITECTS



September 1~7, 1998
Tokyo/Yokohama, JAPAN

People, Architecture and Cities in an Era of Environmental Coexistence

環境共生時代の人・建築・都市
—21世紀における新しい調和的関係を模索しながら—



Main Congress

UIFA, International Conference Hall, National Olympic Memorial Youth Center

Paper Presentation Sessions

Thematic, September 2nd - Buildings and the Environment
Thematic, September 3rd - Architecture and the Environment
Friday, September 4th - Cities and the Environment

Exhibition

Nagasaki Park Tower, UIFA'98
9:30 - 6:30, Wednesday, September 2nd - Sunday, September 4th

Open Symposium in Yokohama

Yokohama Landmark Plaza, UIFA'98 Landmark Hall
14:00 - 18:30, Saturday, September 5th
An Examination of Cities and Buildings, Paths for Tomorrow
From Japan to the World and from the World to Japan
Paid Admission Open to the General Public

Mailing address

UIFA'98
The Laboratory for Innovators of Quality of Life
Kojimachi 2-6-5, Bldg. 2-6-5 Kojimachi, Chiyoda-ku, Tokyo 102-0083, Japan
Phone: +81-3-5275-7861 Fax: +81-3-5275-7866

大会会場

国際女性建築家協会国際会議場(1F) 国際オリンピックセンター

開催期間: 9月1日(水)~4日(土) 受付開始: 9月1日(水)9:30

発表・討論

9月2日(木) 大会会場

9月3日(金) 大会会場

9月4日(土) 大会会場

展示

9月2日(木)~4日(土) 14:00~18:30

9月5日(日) 14:00~18:30

公開シンポジウム(横浜)

9月5日(日) 14:00~18:30

横浜ランドマークプラザ 2F 2F Landmark Hall

テーマ: 明日の都市と建築、未来の日本へ向けて、世界へ向けて

9月5日(日) 14:00~18:30

概要

第12回

大会

開催

会場

期間

発表

展示

シンポジウム

会場

期間

発表

展示

シンポジウム

会場

期間

発表

展示

シンポジウム

会場

期間

発表

展示

シンポジウム

会場

期間

発表

展示

シンポジウム

会場

期間

発表

展示

シンポジウム

会場

期間

発表

展示

シンポジウム

会場

期間

発表

展示

シンポジウム

会場

期間

発表

展示

シンポジウム

会場

期間

発表

展示

シンポジウム

会場

期間

発表

展示

UIFA 国際女性建築家会議 第12回日本大会 1998年9月1日(火)~9月7日(月)

■広報日より

UIFA'98 日本大会を終えての特集。本号が日本大会が会員の皆さんの協力で大きな評価を得たことをお伝えできれば幸いです。

UIFA JAPONは日本大会を飛躍台とする、次なる活動に対する注目を期して期待が寄せられています。21世紀次世代をなう若い世代の会員の大きな活躍に期待し、世界の女性のレースワークの輪を広げましょう。

担当: 飯島、川嶋、渡辺、田中、大高、今村